

ゴボウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	黒斑細菌病	黒斑病	菌核病	黒条病	うどんこ病	黒あざ病	アブラムシ類	フキノメイガ	ハスモンヨトウ	ネキリムシ類	ゾウムシ類	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ
トップジンM粉DL	1		7	3			◎										
フロンサイドSC	29		21	3			◎										
ロブラール水	2		3	3			◎										
リゾレックス粉	14		*b	1					◎								
トリフミン水	3		1	3				◎									
オーソサイド水80	M4		14	5		◎											
ダコニール1000FL	M5		1	5				◎									
ユニフォーム粒	4・11		*b	1					◎								
カスミンボルドー水	24・M1		14	3	◎												
バイデートL粒	1A	劇	*b	1												◎	◎
オルトラン水	1B		45	1						◎							
オルトラン粒	1B		75	1						◎							
スミチオン乳*	1B		14	2						◎	◎						
ダイアジノン粒5	1B		*c	1										◎			
ネキリエースK粒	1B		14	4										◎			
ネマトリンエース粒	1B		*b	1												◎	◎
マラソン乳	1B		7	5						◎							
ラグビーMC粒	1B		*b	1												◎	
アグロスリン乳	3A	劇	14	5						◎					ヒ		
アディオソ乳	3A		7	5						◎		ヨ					
ガードバイトA粒	3A		*a	5										◎			
フォース粒	3A	劇	*c	1										◎			
アドマイヤーFL	4A	劇	7	2						◎							
アドマイヤー1粒	4A		*c	1						◎							
			7	2						◎							
トランスフォームFL	4C		7	3						◎							
ノーモルト乳	15		7	4											◎		
アクセルFL	22B		1	3									◎		ヒ		
ウララDF	29		7	2						◎							
ブレオFL	UN		7	2									◎				
ビーラム粒	-		*d	1												◎	◎

*:商品により適用害虫の登録内容が異なる。

*a:播種時～生育初期 *b:播種前 *c:播種時 *d:植付前
ヒ:ヒョウタンゾウムシ類 ヨ:ヨトウムシ

ゴ
ボ
ウ

ゴボウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑細菌病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 Zボルドー(水)＊ 500倍 カスミンボルドー(水) 1000倍	＊野菜類での登録
黒斑病	播種前	・多発畑では連作を避ける。	黒斑病は秋まきの幼苗期に多発しやすい。春まきでは収穫期に近い秋に発生する。
	発生期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 オーソサイド水和剤80 800倍	
	収穫時	・発病茎葉は収穫時に集めて廃棄する。	
うどんこ病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 トリフミン水和剤 1000倍	
黒あざ病	播種前	1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を全面土壌混和する。 リゾレックス粉剤 40kg/10 a	本病はリゾクトニア菌による。
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを、葉裏によくかかるように散布する。 ウララDF 2000～4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍	
ネキリムシ類	播種時から生育初期	・次の薬剤を散布する。 ガードペイトA(粒) 3kg/10 a	
	生育期	・次の薬剤を株元に散布する。 ネキリエースK(粒) 3kg/10 a	
ゾウムシ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 ノーモルト乳剤 1000倍	
ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウ	播種前	1. 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種溝に土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	